



トリチウム海洋放出だって・・・

二〇一五年、経済産業省・東電は「アルプス（放射能除去装置）で処理した水を関係者の理解なしに放出しない」事を福島県漁連に回答。ところが、菅政権は福島原発に溜まったアルプス処理水トリチウムを含む汚染水の海洋放出を「決定」。

三〇四百億円で凍土壁を作り「地下水の原子炉建屋流入を防ぐ」としたが、効果は薄く、毎日百四十トン流入し、汚染水が増加。

凍土壁はダメと日曜ジジ通信二〇五号(2014.07.13)に書いた。費用はかかるが、鋼矢板やセメントで地下水流入を阻止できる。が政府も東電も凍土壁の失敗を認めようとしてない。

総量が問題

福島原発が地震前に排出していたトリチウムは年間二兆ベクレル。今、福島原発に溜まっているのは九百兆ベクレル。排出濃度の基準は正常運転時がベース。正常運転時がベース。総量が問題になる。

アルプスで処理した水は減ったとは云え他の放射物性質を含んでいる。その総量も問題。

海洋放出するには関係国の了解も必要だ。「風評」と云うと根拠の無い評判と聞こえるが、今回の問題はその枠を超えている。

41年で十分の一に

このトリチウムの半減期は12・32年。従って41年で十分の一になる。しっかりした止水壁で、流入量を減じ、大きなタンクで保管、トリチウムが十分減ってから放出すれば良い。あなたはどう思われますか？

弘明寺公園のリス

神奈川県横浜市南区弘明寺公園
二〇二一年四月



弘明寺公園の北斜面にある大きな椎の木（スタジイ）。

その木立の間に六ツ川通りが見える。

椎の木の手前に遊歩道があり、木をコンクリートで模した低い柵がある。

それから二m位下がってスケッチしていたら、ひよこたん、ひよこたんと柵の上をリスがやって来た。

「お兄さん、何やってるの？」と云わんばかりに、こちらをじつと眺めている。スマホを向けても動じない。

ところが突然、椎の木に飛び移ると、たちまち登ってしまった。

「え？どうして？」
と黙っていたら、遊歩道の真ん中を虎猫が悠然と歩いて来た。

その内、くちばしと足が真っ黄色のムクドリもやって来た。こちらには二羽でデート？

